

今後の住まいとまちに関する 意向結果報告【速報版】

陸前高田を支援する東京4大学共同調査チーム 平成 23 年 6 月

私たち東京4大学(明治大学・法政大学・中央大学・東京大学)の共同調査チームは、避難所や仮設住宅で暮らしていらっしゃるみなさまの今後の住まいとまちに関するご意向を、陸前高田市の復興計画の検討に役立てるため、市の了解を得て、6月5日～8日にアンケートを実施しました。

ご協力いただいた高田一中と長部小の避難所と仮設住宅地に暮らしていらっしゃる方々に主な結果をご報告するとともに、陸前高田市に報告いたします。

今後はこの調査結果を踏まえて、市内各地の仮設住宅等でお暮らしの方々のご意向をお伺いする所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

山本俊哉(明治大学教授)・廣瀬克哉(法政大学教授)
谷下雅義(中央大学教授)・小泉秀樹(東京大学准教授)

問 1 今後のあなたのお住まいについて、どうお考えですか？

アンケートの実施・回収方法と質問項目

調査日：平成23年6月5～8日
調査箇所

陸前高田市立第一中学校
避難所 75世帯
仮設住宅 36世帯
陸前高田市立長部小学校
避難所 28世帯
仮設住宅 27世帯
合計 166世帯

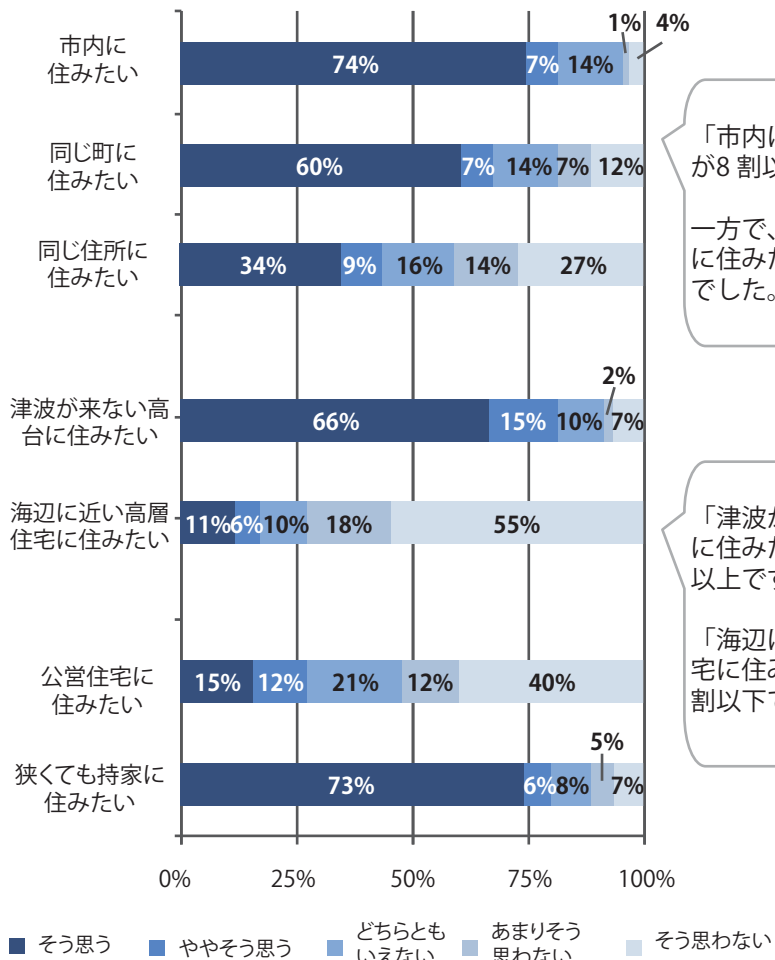
回答者の属性

男性 45%、女性 55%

60代以上 52%

40代～50代 36%

30代以下 12%



「市内に住みたい」が8割以上でした。

一方で、「同じ住所に住みたい」は4割でした。

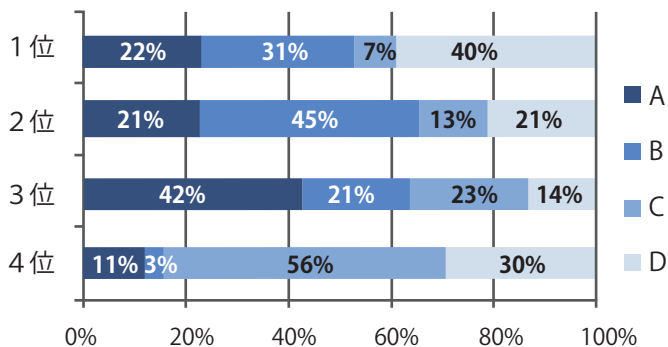
「津波が来ない高台に住みたい」が8割以上です。

「海辺に近い高層住宅に住みたい」は2割以下です。

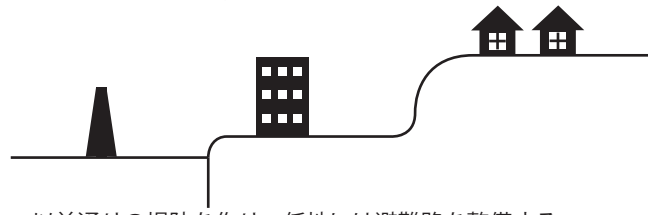
「公営住宅に住みたい」は3割以下でした。

「狭くても持家に住みたい」は8割程度となっています。

問2 今後の防災対策とまちのあり方について、あなたの意見の近い順に、1~4の順位をつけてください。



Bさん：以前通りの堤防を作り、低地には避難路を整備する。その上で、高台に住み、低地で働けるまちにする。

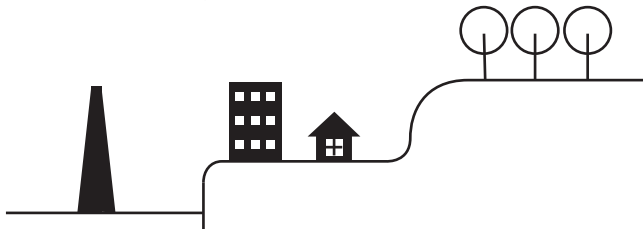


Cさん：以前通りの堤防を作り、低地には避難路を整備する。その上で、低地に住み、低地で働けるまちにする。



「すべて高台で生活できるようにして、低地は利用しないまちにする。」を1位にされた方が4割と最も多くなりました。一方で、4位に付けた方も3割いらっしゃいました。

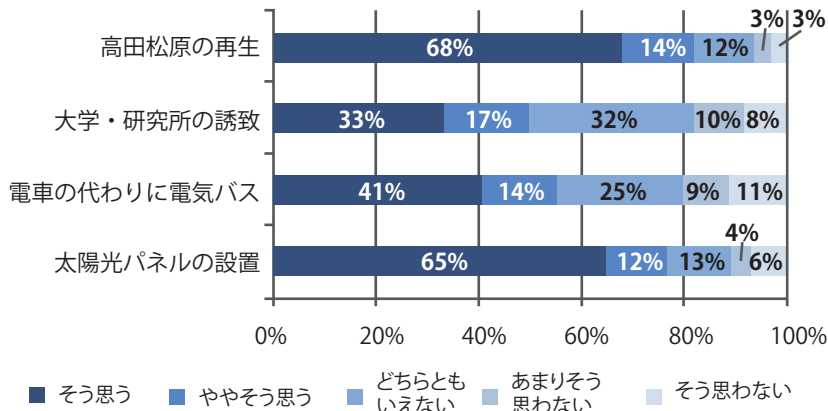
Aさん：従来以上の堤防を作り、地盤も高くする。その上で、低地に住み、低地で働けるまちにする。



Dさん：すべて高台で生活できるようにして、低地は利用しないまちにする。



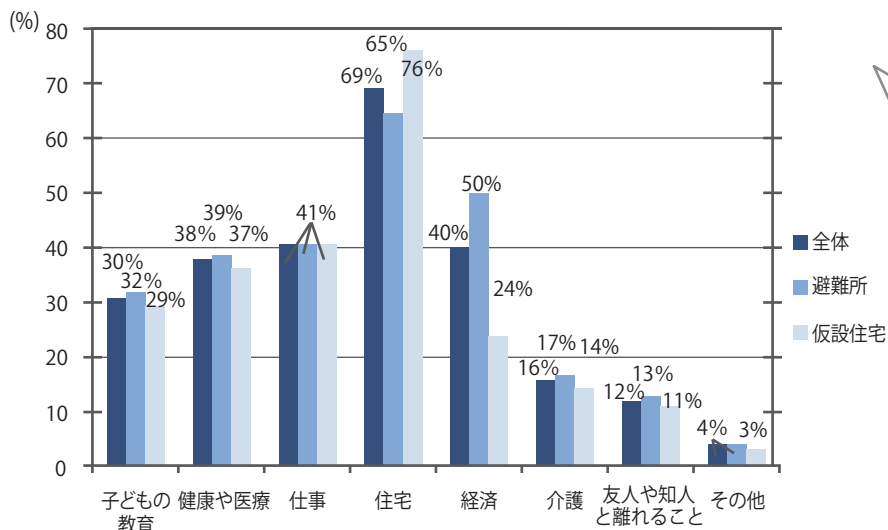
問3 次の復興計画のアイデアについて、どうお考えですか？



「高田松原の再生」「太陽光パネルの設置」は肯定的な意見が8割程度でした。

「大学・研究所の誘致」「電車の代わりに電気バス」はどちらもいえないとの意見が多くなっています。

問4 あなたとご家族の今後の暮らしに関する不安に感じている項目はどれですか？



「住宅」が不安が全体で7割程度と最も高い項目となりました。

続いて、「仕事」「経済」「健康・医療」「子供の教育」の順に高くなっています。

「介護」「友人や知人と離れること」への不安は2割以下でした。

「経済」への不安は避難所で5割、仮設住宅では2割程度と差がみられます。